

令和5年7月10日

三田市議会議員 松岡 信生 様

本会派(私)は、政務調査活動・先進地調査等報告書を下記のとおり提出します。

会派名	新政みらい	代表者	厚地弘行
		議員名	
派遣者氏名	厚地弘行・北本節代・佐貫尚子・中田 哲		
視察先及び調査事項(調査目的)	広島県福山市 イエナプラン教育について		
日時	令和5年7月6日(金) 10時10分～11時40分		
視察先対応者	常石ともに学園校長 甲斐和子 常石ともに学園教頭 坂口憲治		
<p>【調査結果概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■基本理念 21世紀型「スキル&amp;倫理観」を教育活動の中ではぐくみ、「行動化」ができる確かな学びを進める。</li> <li>■福山100年教育が描く未来 →変化の激しい社会の中で、夢とローズマインド(思いやりの心・優しさ・助け合いの心)を携え福山で、日本で、世界でたくましく生き抜く。そして、環境・貧困・人権・平和・開発等、社会の様々な課題を自らの課題ととらえ、課題解決に向け周りの人々と協働して持続可能な社会を創造する。</li> <li>■目指す子供の3つの姿 <ul style="list-style-type: none"> <li>①自立→学ぶ面白さを実感し自ら学ぶ子</li> <li>②共生→持ち味を活かしあい協働する子</li> <li>③自己実現→自己を認識し、自分らしく成長する子</li> </ul> </li> </ul> <p>【スキル&amp;倫理観】責任感を持つ・進んで取り組む・計画する・協働する・生み出す・プレゼンする・リフレクションする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■学びの場での原則 <ul style="list-style-type: none"> <li>○教育活動は対話、遊び、学習、催しの4つの基本的な活動を交互にリズムカルに行う。</li> <li>○子供たちが互いに学びあい、助け合いができるように、年齢や発達状況の違う多様な子供たちを組み合わせたグループを創る。</li> <li>○一人でできる遊びや学習とグループリーダーが指示・指導する学習を交互に行なう。</li> <li>○学習の基本である、経験・発見・探求とワールドオリエンテーションが中心的な位置を占める。</li> <li>○子供の行動や成績の評価は成長の過程を見るという観点を大切に、子供自身との話し合いをする形で進める。</li> <li>○何かを変えたりより良いものにする活動が大切。実際に行動し、よく考え、繰り返すことを実践する。</li> <li>○教室は居心地がよく先生と子供たちがサークル対話、共同作業ができる環境を整える。</li> </ul> </li> <li>■異年齢集団でのグループ編成 <ul style="list-style-type: none"> <li>○1から3年生、4から6年生の3学年による異年齢集団を基本単位として教育活動を行う。</li> <li>⇒年長者が年少者を助けたり、教えたりすることが日常的に行われる。</li> <li>⇒個性や発達程度の違いが当たり前のように受け入れられるようになる。</li> <li>⇒教科学習では学年を超えた学びの展開が可能となる。</li> </ul> </li> <li>4つの基本活動 <ol style="list-style-type: none"> <li>1 対話⇒対話を重視し、個人を尊重し信頼関係を育てる。</li> <li>2 遊び⇒「遊び」そのものが「学び」であり、考える力や協働する力を育てる。 様々なシーンで子供が選択して「遊び」の時間・環境を創る。</li> <li>3 仕事⇒(ブロッカーアワー)⇒子供たちが学習計画を立て学び続ける力を養う。子供の状況に合わせた学習を進める。自立学習やインストラクション、学年の内容を超えた共通の問いについて考えることなどを組み合わせる。 (ワールドオリエンテーション)⇒生きた本物の題材から問いを見出し探求し続ける力を養う。教科の内容と関連した目の前の生きた問と向き合い異年齢集団による協働探求を進める。</li> <li>4 催し⇒子供たちが喜びや失敗の悔しさを分かち合いあう。運動会や学習発表会などの行事だけでなく、その週の学びをプレゼンや演劇にして発表し、他の学年や保護者、地域の方々と共有する。</li> </ol> </li> </ul> <p>【所見】</p>			

広島県福山市

イエナプラン教育について

イエナプランスクール

常石ともに学園

北本 節代

## 所 見

イエナプラン教育とは

- 1～3年生、4～6年生による異年齢集団を基本単位として教育活動を行う
  - 「対話」「遊び」「仕事（学習）」「催し（行事や祝い）」の4つの活動を基本に子ども一人ひとりの個性を尊重しながら自立と共生を学びます。
  - 教室を「リビングルーム」として捉え、安心して過ごせる環境をつくります。
- イエナプランには20の原則が存在する。

①～⑤=人間について ⑥～⑩=社会について ⑪～⑳=学校について

常石地区の人口は12,000人。高齢化が進み、子どもの数も少なくなる中で、2つの中学校と5つの小学校が義務教育学校（福山市立想青学園）として再編されました。

令和4年4月、再編後の常石小学校の施設を活用して「常石ともに学園（イエナプラン教育）」が開校した。

「常石ともに学園」のコンセプトは、「ともに学びともに生きる」

「ともに」はイエナプラン教育校であることを表す象徴的な言葉であり、「友」と「共」に育つ、子どもたちと「伴」に学び続けるという意味があります。学年を超えて子どもどうしが、子どもと先生が、小学校と地域が、ともに成長していけるという願いが込められています。

常石小学校の生徒は全員「常石ともに学園」に在籍し、入学の決まった20名のうち半分は学区外や市外、全国からの移住者は5組であった。

児童数は当初80名だったところ140名に。

職員は、高学年担当（4年～6年）

低学年担当（1年～3年）

特別支援（自閉・情緒）

特別支援（知的）

この4つに分かれている。

最後に、他の学校と目指す姿は変わらないとの説明を受けました。

## 見学

廊下を進んでいくと「ストリートピアノ」が置いてある。誰が弾いてもいい。

次に廊下を進むとランドセル入りの棚の上に個々の名前がついたボックスがあり、そこに教科書が入れてある。

子どもたちは教科書を置いて帰っても良い。(全て子どもの判断、ランドセルでも他のバッグでも良い)

図書館は、床がグリーンカーペット、本棚は白、ソファークッションが置いてある

本のレイアウトは、児童文学評論家の赤木かん子さんの監修

赤木かん子さんは、広島の子どもの学校図書館をリニューアルしている。

教室には黒板はない。教室と廊下の境壁を作りたくない。教室との境はすべて丸見えのガラス張り、授業中も廊下で学んでいる子どももいる。

(質疑)

### ① みんなで考える

今、何が必要かなど生徒だけでなく保護者とも地域の人とも話し合っ決めて。

公民館の館長にはいつも相談に行っている。

来年度から「ともに学園」は「コミュニティースクール」になるらしい。

### ② 子どもたちの日々の状況や成長を保護者に向けて発表している。

子どもたちが学年を越えた学びを通して成長できていることは、素晴らしいと感じた。

発表している姿にも学年を問わず自信と力強さを感じられた。

三田市に於いてもあすなる教室や複式学級に、まずは取り入れることができないか。

それには、担当の先生方が現地へ視察に行かれることをすすめた。

今回の視察では、他校の先生方も「校長先生の許可が下りた」とのことで視察に来られていた。

三田市では、現在、弥生小と富士小の統合が進められている。

いずれは、もっと小規模校が1~4校あたりが再編、統合となった時、

「コミュニティースクール〇〇〇ともに学園」が開校となれば全国的话题になり、子ども教育が充実し発展するのではないかと、何となくワクワク感が漂う。

本庄・藍・志手原・小野・母子 5小学校

長坂中・藍中

2中学校

義務教育学校「〇〇〇学園」として再編

この様な構想を考えてみた。

視察先 : 岡山県浅口市

視察目的: 無料バスについて

視察概要: 浅口市役所において

井澤誠議長、石田康雄企画財政部長、富田正樹課長  
仁科道也地域創造主幹より説明を受けた

### 【事業の背景】

市内の井笠鉄道(株)が経営破綻し、平成24年にバス路線が廃止されたことによる。平成22年から既に市民アンケートを行い、公共交通の課題整理をはじめている。23年2月市営バス無償の試行運行を行うために業者選定し、4月から開始する。

### 【事業の内容】

アンケート結果に基づき高齢者の買い物と病院への交通手段の確保として、交通空白地域を最小限にし、地域をきめ細かく回る市営バス6路線を実施することとなった。している。バスはハイエース12人乗りを6台市が購入。保険、ガソリン代等は市が負担し、運転などの運行を2社に業務委託する。乗降者がいない停留所は通貨するワンマンバス方式。

現在は週3回の運行であるが、当初は各路線を週2回で始めている。一日あたり4便から7便。バス停を表示する工作物はなく、床にペインティングしている。

乗車の多い路線にはその区間のみ2台の連車で運行。

年間運行経費は2,054万円(うち業務委託費1,050万円)

年間のべ利用者数30,990人、一便あたりの乗車数6.1人、乗車率39.7%

コロナ禍中は利用者が減っていたが、今年くらいから盛り返している。

運行の法的位置づけは、道路運送法によるものとせず白ナンバーでの運行である。

### 【質問に対して】

道路運送法の有償運送にすれば様々な規制があり複雑になる。一方、道路運送法外であっても法律に触らないように調査の必要はあるし、法律の改正には気を使っていかなければならないと説明があった。

### 【今後の課題】

床のバス停留場所のペインティングに色落ちが早いこと、便数を増やしてほしい、運行の曜日が限られる、家の前にもバス停留してほしいなどの市民ニーズがある。高齢者の増加に伴う福祉施策としての対応も検討が必要と考えている。また技術の発展による無人バスの開発も進んでおり、その進捗も見ていきたいと説明があった。また、主に高齢者が乗車するため、他の世代の人からは利用者が無料で行うのは問題があるのではないかとの意見もあるが、若い世代もいずれ高齢になると言うことの説明で今は納得していただいている。

### 【資料別途添付】

岡山県 浅口市

☆公共交通機関の現状について

「浅口ふれあい号」

北本 節代

## 所 見

平成18年3町が合併して浅口市が誕生

人口R4、12月末 33,382人

面積66,46平方キロ、岡山県で最も面積が小さな市

市の中心部から15分もあれば市内のほとんどの場所に行くことが可能

市域全域で高齢化が進み、市営バスと乗合バス事業者による路線バスの運行により、必要最低限の交通手段は確保されているが、課題も残っている。

利用者に高齢者が多く、今後免許返納する方が増えていくことに伴い、市営バスだけでなく福祉施策と併せて対応していく必要があるとの説明を受けた。

:

三田市の人口約107,000人 面積210,32平方キロ

三田市に於いては、現在、小野地区、広野地区、藍本（日出坂）地区にそれぞれ最寄りの公共交通までの送迎を実施されているが、人口・面積の違いから見ても、浅口市のような取り組みは望めないのではないかと思う。今後は、まちづくり協議会において各地域でアンケートを実施する等、あるいはモデル地区を設定するなどの工夫が必要ではないかと感じた。